

シリーズ●日本再発見⑤

# 城 Japanese Castles



空前の「城」ブームである。

2018年度の統計では、大阪城、名古屋城、二条城でそれぞれ入場者数が200万人を超えたという。

その「城」のなかでも、江戸時代までに建造され現在にその姿を伝える「現存十二天守」をご存じだろうか。

全国各地に多くの城を見ることができるが、前出の3城を含め、ほとんどの天守は後世に復元されたもので、往時の姿を見ることがのできる天守は全国に12基だけである。その貴重な12天守の魅力に迫りたい。

# 城

Japanese Castles

日本の城の起源は古くは弥生時代にさかのぼります。広く稲作が行われるようになると富の権益をめぐる戦いが行われるようになりまし。外敵の侵入を防ぐため、周囲を二重三重に濠をめぐらせた環濠集落がつくられるようになったことが「城」のルーツと考えられています。その後、城の構造も幾多の変遷を遂げ、戦国時代後期には松本城などに見られる「天守」を備えた城が造られるようになります。

戦国時代末期、日本には2万以上の城がありました。しかし現在は「城跡」や部分的に復元されたものを含み、一般に見学できる城は200城あまりです。その中でも、江戸時代までに建てられた「天守」が現存するのはわずか12城だけとなくなりました。それらは「現存十二天守」と呼ばれています。

たくさんあった城がなぜここまで減ってしまったのか。それには3つの大きな要因があります。

## 1. 一国一城令

江戸幕府をひらいた徳川家康が、1615年に「一国一城令」を発し諸大名に対して居城以外の城の廃城を命じ

ました。目的は、諸大名の軍事力を削減するためです。これにより城の数は約170まで減ってしまいました。

## 2. 廃城令

明治維新により武士の世も終わり、それに伴い城も不要になります。1873年に「廃城令」が制定され多くの城は、天守などの建造物は売却され、城跡は官公庁用地や軍事施設に転用されました。

## 3. 太平洋戦争

太平洋戦争開戦前には20城の天守が残されていましたが、空襲により7城（水戸城・名古屋城・大垣城・和歌山城・岡山城・福山城・広島城）が焼失してしまいます。さらに、戦後の1949年に北海道の松前城が失火により焼失してしまいました。

現在も残っている天守は、このように多くの苦難を乗り越えてきたもので、その数はわずか12城だけになりました。今号では全国各地にあるその「現存十二天守」について特集します。先人たちが築いた日本のシンボル「城」、江戸時代までに作られた「現存十二天守」を訪れ、歴史を感じてみてはいかがでしょうか？

## 現存十二天守

**国宝**：国宝に指定されている天守

**重文**：重要文化財に指定されている天守

### 弘前城

**重文**

**関東・東北地方唯一の現存天守**



所在地：青森県弘前市  
築城年：慶長16年（1611）

弘前城は、1590年に津軽地方を統一した津軽為信の子である信玄によって築城された。もともとの天守は五重であったが落雷のため焼失。文化7年（1810）に本丸の辰巳櫓を改築して天守代用とした。これが現存する天守。桜の名所としても有名で、日本を代表する花見スポット。

### 松本城

**国宝**

**日本最古級の五重六階の天守**



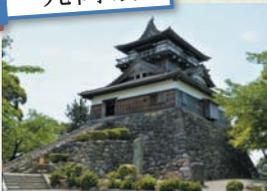
所在地：長野県松本市  
築城年：文禄2～3年（1593～94）

戦国時代の永正年間（1504～21）に築城された深志城が前身とされる。天正18年（1590）に徳川家康の関東移封により、小笠原氏に代わり石川数正・康長父子が入城、城と城下町の整備を進め、近世城郭としての松本城の基礎を固めた。現存する五重天守は、この松本城と姫路城の2基のみ。

### 丸岡城

**重文**

**現存天守に石瓦が使用された唯一の城**



所在地：福井県坂井市  
築城年：天正4年（1576）

一向一揆の備えとして、織田信長の命により柴田勝家の甥・勝豊が築いたとされる。別名は霞ヶ城とも呼ばれる平山城。天守の屋根瓦は笏谷石製で、石瓦を使用しているのは凍結して破損することを防ぐため。昭和23年（1948）の福井地震で倒壊したが、可能な限り倒壊前の建材を使用し再建された。

### 犬山城

**国宝**

**天守から見下ろす木曾川の眺めは絶景**



所在地：愛知県犬山市  
築城年：天文6年（1537）

犬山城は、織田信長の叔父である信康が木曾川沿いの標高88mの丘陵上に築いた。その後、城主はめまぐるしく交替し、元和3年（1617）に尾張徳川家の付家老である成瀬氏が城主となる。城の佇まいを中国長江流域にある白帝城にちなんだことから、白帝城とも呼ばれる。

## 彦根城

**国宝** 多彩な様式を組み合わせた国宝天守



所在地：滋賀県彦根市  
築城年：慶長9年（1604）

徳川四天王の一人、井伊直政の子である直継・直孝によって築城された。佐和山城や大津城などの周辺の廃城から用材や石材を調達し、急ピッチで進められたが城下町を含む城の完成には20年の月日を費やした。多彩な様式を組み合わせた破風は現存天守の中で最も多く、美しく調和がとれている。

## 姫路城

**国宝** 白鷲城の別名もある荘重優雅な城



所在地：兵庫県姫路市  
築城年：天正8年（1580）

姫路城は「姫山城」として南北朝時代の初めに築かれたとされている。その後、羽柴（豊臣）秀吉が三重の天守を築いて「姫路城」と改称。慶長14年（1609）、徳川家康の娘婿・池田輝政が8年の歳月をかけて、現在の形の大城郭を築き上げた。昭和の大修理を経て平成5年に世界文化遺産に登録。

## 松江城

**国宝** 宍道湖に臨む実戦重視の城



所在地：島根県松江市  
築城年：慶長12年（1607）

出雲松江藩二代藩主堀尾忠晴と城普請の名人といわれたその祖父吉晴により、宍道湖畔の亀田山に築かれた。四重五階、地下一階の天守は極めて実践的で、いたるところに石落や狭間（弓矢や鉄砲などで攻撃する防御用の穴や窓）が設けられており、防御面で工夫が凝らされている。

## 備中松山城

**重文** 山城として唯一の現存天守



所在地：岡山県高梁市  
築城年：延応2年（1240）

秋庭重信が延応2年に築城したのが最初とされる。城のある臥牛山は中国山地と瀬戸内を結び交通の要衝を見下ろす位置にあり、毛利家などの城塞として機能していた。二重二階の天守は現存する天守の中では最小規模であるが、山城としては唯一現存しているものである。

## 丸亀城

**重文** 高さ日本一の石垣を有する石垣の名城



所在地：香川県丸亀市  
築城年：慶長2年（1597）

標高66メートルの亀山に生駒親正とその子一正によって、慶長2年から築城され6年後完成するが、間もなく一国一城令により廃城。その後入封した山崎家治が丸亀城の再建に取りかかるが、跡継ぎがなく改易。その後に入った京極氏が城を完成させ、現在みられる天守はその頃に建てられたもの。

## 松山城

**重文** 勝山山頂にそびえる広大な平山城



所在地：愛媛県松山市  
築城年：慶長7年（1602）

関ヶ原の戦いの戦功により伊予を与えられた加藤嘉明が築城を開始するが、城の完成は蒲生氏を経て松平氏の時代である。天守は落雷により焼失するも、安政元年（1854）に再建竣工され、この天守が今も残る。門・櫓・塀を多数備え、狭間や石落、高石垣などを巧みに配し、攻守の機能に優れている。

## 宇和島城

**重文** 築城の名手高虎による会心の名城



所在地：愛媛県宇和島市  
築城年：文禄4年（1596）

藤堂高虎が6年を費やして築いた城で、築城地にはリアス式海岸の宇和海の最深部が選ばれた。城の城郭は上から見ると不等辺五角形で、随所に築城の名手と言われた高虎ならではの工夫が見られる。高虎が転封となった後、寛文6年（1666）に伊達宗利によって建てられた天守が現在のもの。

## 高知城

**重文** 鷹城の別名もある南海道随一の名城



所在地：高知県高知市  
築城年：慶長6年（1601）

土佐藩初代藩主山内一豊が大高坂山に築城し、四重六階の天守を建てた。享保12年（1727）の大火で天守をはじめほとんどの建物を焼失。その後、寛延2年（1749）に天守は再建され、現在の天守はこの時のもの。屋根瓦の灰色と白漆喰壁の白が鷹の色合いに似ていることから鷹城の別名もある。

Explain Castle in English!

城を英語で紹介!



Himeji Castle is a UNESCO World Heritage Site.

姫路城は世界遺産に登録されています。

There used to be more than 20,000 castles in Japan.

日本にはかつて2万を超えるお城が存在しました。

The area surrounding a Japanese castle was developed and prospered as a castle town.

城の周囲には城下町として都市が栄えました。

Today, only twelve castles maintain the tower keeps that were built no later than the Edo period (1603-1867).

江戸時代までに建てられた天守が現在も残っているのは12城だけです。